



名寄市立大学の窓から

知への誘い

vol.83

一人ひとりに応じた支援をするために

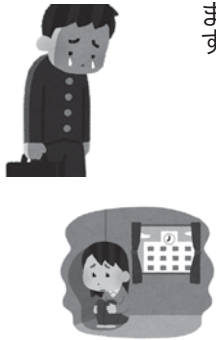
保健福祉学部 社会保育学科

准教授 藤川 雅人



近年、「発達障害」という言葉を耳にすることが多くなりましたが、特別支援教育について、考えられたことはありますか。特別支援教育が制度化されて、今年で12年が経ちました。

特別支援教育は、特別支援学校や小・中学校の特別支援学級にいる子どもたちだけではなく、小・中学校の通常の学級や高等学校に在籍する特別な教育を必要としている子どもたちも対象としています。その特別な教育を必要とする子どもに対し、一人ひとりに応じたオーダーメイドの支援をするべく、その基盤として、個別の教育支援計画があります。



個別の教育支援計画は、学校が中心となり医療、保健、福祉、労働などの関係機関と連携し、長期的な視点での確かな教育支援を行う計画のことです。この計画を策定することにより、その学校を卒業した後も、次の進路先に支援内容を引き継ぐことによって、一貫した支援を可能とさせます。この計画を策定するメリットとして、

- ① 教育的ニーズの把握
- ② 支援内容の明確化
- ③ 関係者の共通理解と連携強化
- ④ 定期的な見直しによる継続的な支援

などがあると言われています。特別な教育を必要としている子どもが自立し、社会に参加していくためには、保護者や学校の先生だけでなく、さまざまな分野の方

々との密接な連携や協力のもと、一貫した支援が必要なのです。以前、私が勤務していた学校で、人とのコミュニケーションが苦手なAさんという子どもがいました。Aさんは、放課後等デイサービスを利用して、その施設のバスが学校まで迎えに来ています。ある日から、そのバスに乗ることをためらっているAさんの行動が見え始め、数日同じ状況が続きました。担任の先生は、放課後等デイサービスへようすを見に行ったところ、Aさんの支援方法が学校と放課後等デイサービスとは、異なっていたということです。その後、保



護者の方の承諾を得た上で、個別の教育支援計画を話し合いを行い、放課後等デイサービスも学校の支援計画に合わせ、支援の方法を取り入れました。程なく、Aさんは学校が終わると楽しそうにして、バスに乗ることができるようになりました。また、学校でも、個別の教育支援計画に放課後等デイサービスの詳細な内容を追加して記述することとなりました。

個別の教育支援計画を作成するにあたっては、学校の中だけで考えるのではなく、関係機関の具体的な支援目標、方法、内容などを把握するとともに、互いに共通理解を図ることが重要です。また、子どもの思いや希望、得意なこと、好きなことを理解した上で、支援方法を考えることが必要です。



名寄市立大学の平成30年度決算状況をお知らせします

収入		金額
運営経費	授業料・諸納付金	5億1,896万2,000円
	入学科・受験料	6,406万8,000円
	一般会計繰入金	9億9,776万6,000円
	その他	4,640万6,000円
運営経費収入計		16億2,720万2,000円
設備投資	国・道支出金	4,181万8,000円
	一般会計繰入金	1億5,054万3,000円
	設備投資収入計	1億9,236万1,000円
収入合計額		18億1,956万3,000円

支出		金額
運営経費	人件費	10億9,677万8,000円
	物件費・維持補修費・補助費等ほか	4億1,182万6,000円
	備品費等	1,392万6,000円
	運営経費支出計	15億2,253万円
設備投資	設備投資費	6,279万1,000円
	公債費（償還金）	1億2,957万円
	設備投資支出計	1億9,236万1,000円
支出合計額		17億1,489万1,000円

積立金	金額
今後の大学運営のため(寄附、利子積立等)	1億467万2,000円
積立金合計額	1億467万2,000円

◆問い合わせ 名寄市立大学事務局総務課 ☎01654@24194